

◆◆◆「ものづくり技術委員会（Monozukuri 略称 MZK）」が設置されます ◆◆◆

従来プロセス工業や製造・電設などの産業分野において、金属産業技術委員会、一般産業技術委員会と分野毎に分かれた活動が行われてきました。しかしながら分野間の連携や技術活性の観点から二つの技術委員会を統合し、2011年1月からものづくり技術委員会（略称 MZK）を設置することになりました。ものづくり技術委員会設置の趣旨につきましては、下段の設置趣意書抜粋をご覧ください。また、ものづくり技術委員会の取り扱う主な技術分野は以下の通りですので、研究会申込等の参考にして下さい。

プロセス工業(鉄鋼、非鉄、化学、石油、ゴム、ガス、紙パルプ、食品など)、製造・電設(電気、機械精密、金属、自動車、造船、土木、電気・電子機械部品、電設工業など)などの産業分野における(1)パワーエレクトロニクス応用技術(2)計測制御・最適化技術(3)ソフトウェア技術(4)自動化・システム化技術(ロボット、各種自動機械、通信・情報伝送技術など)(5)環境・省エネ・創エネ技術(6)安全管理技術(7)エンジニアリング技術(設備計画、新技術の適用含む)(8)診断・維持管理技術(9)その他関連事項

初年度の2011年には4回の研究会開催を計画しております。また活動内容・領域に関する活発な議論を歓迎いたします。研究会資料の年間予約方法については下記 URL に記載しておりますので、この機会に是非ご予約下さいますようお願いいたします。

<http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/15-research/index037.html>

電気学会産業応用部門 研究調査運営委員会 委員長
竹下 隆晴 (名古屋工業大学)

***** 設置趣意書抜粋 *****

現在まで、日本の産業の根幹を支えているものは製造業＝「ものづくり」であった。代表的分野として、鉄鋼・非鉄金属、石油・化学・素材産業、食品・医薬品、自動車・機械、電気・電子・半導体、製紙があげられるが、すべてのものづくり業に、不可欠かつ重要なコンポーネントは、いうまでもなく、生産に関わる電気/電機/電子機器(生産設備)である。昨今、ユーザーニーズの多様化と、製品安定供給の要求から、生産設備には、よりいっそうの、高性能化、高信頼性、診断技術の確立が求められるようになってきた。それに並行し、分野、業種、用途に応じ、生産設備は多種多様に発展し、電気学会においても、複数の技術委員会が設立されるに至り、これまで成果を上げてきた背景がある。

こうした状況における問題のひとつは、各技術分野が、個々に発展し、分野間の技術連携が薄れていくことがあげられる。異なる業種/分野においても、ものづくりに伴う共通の技術要素や技術課題が存在しており、技術活動を充実・活発化するためには、「ものづくり」という共通観点から、委員会どうしのより密度のたかい協力・協業が求められているのである。一方で、確立した既存の技術分野を扱いながらも、われわれは、未来へ向けた、新たな技術分野へも目を向けていかねばならない。

以上の状況をかんがみ、主に鉄鋼業を対象に活動している金属産業技術委員会(MID)と、その他一般産業を対象とする一般産業技術委員会(GID)を統合し、それを核に、新たな「ものづくり技術委員会」の設立を目指すものである。「ものづくり技術委員会」は、上記2委員会に、産業電力電気応用技術委員会の一部を加え、「ものづくり」の観点から、より発展的な「プラスアルファ」の創出を目指すこととする。
